

**けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会  
第10回 企画・広報分科会  
11年度活動報告・12年度活動計画(案)**

2012年4月26日  
企画・広報分科会

## ○ 分科会の構成（敬称略）

（リーダー）

松本 幸則（パナソニック コーポレートR&D戦略室 技術戦略グループ 参事）

（サブリーダー）

田畑 雅章（NTTコミュニケーションズ 法人事業本部 第二法人営業本部 第二営業部 担当部長）

山内 正巳（KDDI 官公庁営業部 営業3グループ グループリーダー）

松居 真一（パナソニック コーポレートR&D戦略室 技術政策グループ 参事・チームリーダー）

## ○ 分科会の活動方針

### 1. 創造系活動

- ・定期的な会員への研究ニーズ調査、内外の動向調査
- ・研究ニーズに基づき、新たな産学官連携研究開発テーマを検討

### 2. 促進系活動

- ・各研究開発テーマ間の交流促進
- ・シンポジウムや施設見学会等イベントの企画・実施による産学官連携促進
- ・産業振興や市民生活向上の観点からのアウトプット活用方策検討などの成果活用促進

### 3. 整備系活動

- ・研究開発整備要望など研究活動推進

# 2011年度の活動報告①

## 1. 創造系活動

- ① 協議会がオープンラボという施設のみにとらわれず、より広く産学官連携による情報通信分野の研究開発の発展をはかるための活動をおこなえるようにするため、規約中の目的と活動について改訂をおこなった。
- ② より効果的な協議会体制とするため、ユニバーサルコミュニケーション分科会とユビキタスネットワークロボット専門委員会とを統合した体制とした。
- ③ WG活動費を会員企業数に応じてWGに配分し、WG活動の支援を継続した。実験用機器や会議開催費、旅費などに利用していただいた。
- ④ セミナー、シンポジウムの機会などにアンケートをとり、協議会活動への要望等を調査した。

## 2. 促進系活動

- ① 災害時の情報通信ネットワークの課題やニーズ、震災復興に向けて情報通信技術の役割などについて調査、検討し、東北地域の産学官連携関係者との交流や情報交換をおこなうために、東北より講演者を招いて、けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2011「新しい日本の姿に向けた情報通信の役割」を開催した（12月1日、けいはんなプラザ）。
- ② けいはんな情報通信研究フェア2011において、ブース展示をおこない、研究活動の紹介とアピールを実施した（11月10-12日、けいはんな）。
- ③ 国民文化祭・京都2011において、研究活動を紹介した（3D映像技術、10月29日-11月3日、けいはんなプラザ）。
- ④ セミナー、ワークショップなどの開催による情報提供、人材育成の実施。
- ⑤ ウェブページによる会員相互のコミュニケーションを促進し、協議会活動の一層のPR、普及・啓発活動の強化につとめた。
- ⑥ 新パンフレットの作成。
- ⑦ 他団体（超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム、高度言語情報融合フォーラム、AC・Net等）との交流につとめた。
- ⑧ 地域の研究開発活動との連携強化の検討（エコシティ推進会議、うめきたナレッジキャピタル等）。

## 3. 整備系活動

- ① オープンラボ施設として、タイルディスプレイテストベッドを開設。
- ② 新世代通信網テストベッドJGN-Xなどのネットワーク施設整備を継続。
- ③ NICTの計算機室整備に伴い、新たに計算機設置スペースを確保。

## 2011年度の活動報告②

	2011年 4月 5月 6月	7月 8月 9月	10月 11月 12月	2012年 1月 2月 3月 4月
企画・広報分科会	● 第9回 分科会 (4/7)			● 第10回 分科会 (4/10)
創造系活動		WG活動支援 ● シンポジウム テーマ、ニーズ調査		
促進系活動	→ 総会企画準備		→ シンポジウム 開催準備	→ セミナー 開催準備
		随時情報発信(Webサイト&Newsメール送付)		
整備系活動		けいはんな情報通信オープンラボの整備・運用		
		JGN-Xなどのネットワーク施設整備・運用		
【協議会関連】	● 第11回 運営研究 部会 (4/20)	● 第10回 協議会 総会 (5/31)	● 国民文化祭 (10/29-11/3)	● けいはんな 情報通信研 究フェア2011 (11/10-12)
			● 協議会主催 シンポジウム (12/1)	● セミナー (2/24, 3/23, 3/27)
			● 第12回 運営研究 部会 (4/26)	
		オープンラボ協議会事務局打合せ、月1回程度開催		

# けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2011 開催報告

○開催日時:2011年12月1日(木) 13:00~17:15

於:けいはんなプラザ(京都府精華町)

○来場者数 : 100名(交流会は59名)

○アンケート回収数: 28名

## ○全体講評

協議会の取り組みや研究成果の報告・広報に加えて、災害時の情報通信ネットワークの課題やニーズ、震災復興に向けての情報通信技術の役割についての調査・検討、東北地域の産学官連携関係者との交流・情報交換を目的におこなわれました。震災における情報通信技術を扱ったものとして関西ではユニークなシンポジウムとなり、来場者からたいへん好評を得ました。震災の実体験に基づいた講演に迫力があつた、災害時の通信機能の確保と情報利活用の重要性を認識した、多くの方にぜひ広く知ってほしい内容である、など感想をいただきました。

## テーマ: 新しい日本の姿に向けた情報通信の役割

### ○プログラム

#### ◆開会挨拶・主催者挨拶

けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会理事・部長  
丸野 進 氏(パナソニック株式会社 理事・技監)

#### ◆基調講演「地震を知って震災に備える」

尾池 和夫 氏(国際高等研究所所長 前京都大学総長)

#### ◆特別講演1「大規模災害における犠牲者の身元確認と情報技術 ~被災地が抱える問題の真実と我々の役割~」

青木 孝文 氏(東北大学大学院情報科学研究科教授)

#### ◆特別講演2「東日本大震災による通信網被災の状況と今後の対策」

南川 夏雄 氏(NTT東日本 取締役 東北復興推進室長・宮城支店長)

#### ◆協議会の活動紹介

「大規模災害を想定した光ネットワーク制御技術の相互接続性」

新世代ネットワーク分科会 相互接続性検証WG

吉田 聡太 氏(三菱電機株式会社 情報技術総合研究所)

#### ◆パネルディスカッション

「災害対応の革新に向けた情報通信技術」

(チェア) 木俣 豊 氏(NICTユニバーサルコミュニケーション研究所長)

(パネリスト)

・井澤 一郎 氏(京都大学情報環境機構教授)

・荒牧 英治 氏(東京大学知の構造化センター講師)

・奥村 貴史 氏(国立保健医療科学院特命上席主任研究官)

#### ◆閉会挨拶

太田 清喜 氏(総務省近畿総合通信局情報通信部長)

#### ◆展示会・交流会



基調講演: 尾池和夫氏

特別講演: 青木孝文氏

特別講演: 南川夏雄氏



会場風景

活動紹介: 吉田聡太氏

ワーキンググループ会員企業  
や関連団体のポスター展示



パネルディスカッション



## 2次元通信セミナー 開催報告

○開催日時：2012年2月24日(金) 14:00-17:00  
於：(株)国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) G階 01会議室

○講師：  
「2次元通信の概要」 東京大学 篠田裕之  
「電力伝送におけるEMC」 NEC 中瀬康一郎  
「低干渉通信の現状と課題」 NECエンジニアリング 正垣啓幸  
「通信シートの開発」 帝人ファイバー 大内田真智子  
「2次元通信関連技術の活用事例」 セルクロス 箱崎光弘  
「NICTにおけるシート媒体を用いた近接通信の現状と今後の展開」  
情報通信研究機構新世代ワイヤレス研究センター 張 兵

○出席者数：22名

### ○概要

2次元通信とは、おもにマイクロ波領域以上の周波数の電磁波を薄い2次元媒体に閉じ込めて信号伝送する新しい通信の形態である。カプラを媒体に近接することで低損失の結合を確立することができ、安全なワイヤレス電力伝送、周囲との干渉の小さい通信が実現できる。通信媒体は部屋空間の表面に低コストで組み込むことができる。これまではおもに基礎研究としての2次元通信の可能性が示されてきたが、一般環境での電力伝送の効率や安全性、通信の低干渉性については、十分明らかにされてきてはいなかった。今回のセミナーでは、電力伝送、低干渉通信の実用化を目指して研究・開発を進めている方々にその現状をご講演いただいた。

本セミナーでは、まず篠田先生は2次元通信の概要について紹介された。通信の技術開発の背景と原理を述べられたとともに、安全な電力伝送と低干渉通信技術について解説された。また、中瀬様は電力伝送におけるEMC評価技術について統括され、各方式の特徴をまとめることにより他方式との比較を行われた。正垣様は2次元通信における低干渉通信の現状と課題について紹介された。さらに大内田様は通信シート開発における最新成果、箱崎様は2次元通信応用技術の活用事例について紹介された。最後に、張主任研はNICTにおける2次元通信技術の研究開発現状と今後の展開について紹介された。

参加者アンケートでは、「情報通信IT分野の最先端技術の現状と課題をまとめている今回のようなセミナーは是非聞きたい」、「非常に中身のあるセミナーだった」など好評を得た。 6



# ネットワークセキュリティセミナー 開催報告

○開催日時：2012年3月23日(金) 13:30~16:30  
於：(公社)関西経済連合会 294会議室(大阪、中之島)

○講師と演題：

「サイバーセキュリティの研究開発動向と新たな脅威」

(独)情報通信研究機構ネットワークセキュリティ研究所

サイバーセキュリティ研究室室長 井上 大介 氏

「IPv6の安全性」

(独)情報通信研究機構ネットワークセキュリティ研究所

サイバーセキュリティ研究室主任研究員 衛藤 将史 氏

○出席者数：16名

○アンケート回収数：9名

## ○概要

ネットワークへの脅威がグローバル化し、その攻撃手法も複雑化している現在、注目の集まっているネットワークセキュリティをとりあげ、セミナーをおこなった。

井上氏からは、ネットワークセキュリティの基本から、歴史、対策、研究開発の現状や方向など幅広くお話しいただいた。マルウェアの目的が愉快犯から経済犯に変化していること、ボットに感染したパソコンが世界中に数多く存在し、ここを足場に攻撃がおこなわれているなどの現状のもと、その監視と可視化のため、Nicterの開発をしていることが紹介された。

衛藤氏は、今後普及することになるIPv6について、その特徴や課題などをお話しいただいた。IPv6技術検証協議会で課題を洗い出しており、対策が進みつつあることが紹介された。

ネットワークへの脅威の現状やセキュリティ技術について理解が深まった、さらに詳しい話が聞きたい、などの感想をいただいた。





# 新世代ネットワーク分科会ワークショップ 開催報告

- 日時: 2012年3月27日(火) 14:00~17:30
- 場所: (独)情報通信研究機構 本部 (東京都小金井市)
- 後援: (独)情報通信研究機構
- 来場者数: 48名
- 報告:

第3回目となる今回は、毎年恒例の成果発表に加え、当分科会としては初めての試みとして基調講演とパネル討論も併せて実施した。

基調講演では、早稲田大の松島教授より、「光ファイバ通信技術は発明から実用化までにはおよそ40年を要しており、イノベーションを伴う研究開発には長期スパンで取り組む覚悟が必要」との提言に、一同認識を新たにしました。

各WG活動の成果発表の中では、昨秋に世界に先駆けて成功したITU-Tの新規格による100ギガビットイーサ相互接続検証実験の報告や、高速化と低消費電力を実現した光通信デバイスの研究開発に関する報告などがなされた。

続くパネルディスカッションでは、各WG活動の総括的な報告と新世代ネットワークの標準化動向などから、将来ネットワークへの展望が試みられた。今回は特に、東日本大震災から得られた知見や、省電力に対する様々な取り組み事例なども各パネリストから紹介され、今後の研究開発の方向性を占う上で実りあるパネル討論となった。

## ～プログラム～

- ①主催者挨拶(14:00~14:05)  
新世代ネットワーク分科会リーダー 大柴小枝子氏(京都工芸繊維大学大学院教授)
- ②基調講演(14:05~14:45)  
「光通信技術の沿革と展望～光通信インフラのイノベーションから学ぶ～」  
早稲田大学研究戦略センター教授 松島裕一氏

- ③各WGの成果発表(14:45~15:35)

座長: 原井 洋明 氏(情報通信研究機構)

### ■相互接続性検証WG

「100GE/OTU4による異ベンダ間相互接続検証実験」

NECネットワークプラットフォーム事業本部

光ネットワーク事業部 吉原知樹 氏

### ■フォトニックWG

「ユニバーサルリンク技術の研究開発とJGN-Xフィールド実験」

NTT未来ねっと研究所

フォトニックトランスポートネットワーク研究部 宮本 裕 氏

- ④パネルディスカッション(15:50~17:10)

### ■テーマ「将来ネットワークのあるべき姿とこれからの研究開発

～各WG活動の成果と標準化動向から～

### ・パネリスト:

岡本 聡 氏(相互接続性検証WG副主査/慶應義塾大学大学院 准教授)

宮本 裕 氏(フォトニックWG/NTT未来ねっと研究所 上席特別研究員)

大槻英樹 氏(情報通信研究機構 テストベッド研究開発推進センター)

### ・モデレータ:

大柴小枝子 氏(新世代ネットワーク分科会リーダー/京都工芸繊維大学大学院教授)

- ⑤閉会挨拶(17:10)

情報通信研究機構理事 宮部 博史 氏



主催者開会挨拶: 大柴小枝子氏  
(新世代ネットワーク分科会リーダー)



基調講演: 松島裕一氏  
(早稲田大学教授)



WG成果発表: NEC 吉原氏  
(相互接続性検証WG)



WG成果発表: NTT 宮本氏  
(フォトニックWG)



パネルディスカッション  
(ステージ左から大柴氏、岡本氏、宮本氏、大槻氏)



閉会挨拶: 宮部博史氏  
(NICT 理事)



各WG活動等の  
ポスター展示



## 1. 創造系活動

- ① 協議会体制の整備検討
- ② WG活動費によるWG活動の支援を継続
- ③ 会員アンケート、ニーズ調査の実施

## 2. 促進系活動

- ① 協議会設立10周年記念事業の企画、実施（協議会は2002年10月31日に設立）
- ② けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2012の開催（11月～12月予定）
- ③ けいはんな情報通信研究フェア2012において、研究活動紹介、広報活動（11月8-10日、けいはんな）
- ④ セミナー、ワークショップなどの開催による情報提供、人材育成の実施
- ⑤ ウェブページを活用した会員相互の交流の促進、協議会活動の一層のPRや広報・啓発活動の強化
- ⑥ 他団体（超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム、高度言語情報融合フォーラム、AC・Net等）との交流促進
- ⑦ 地域の研究開発活動との連携強化（国際戦略特区関係、けいはんなエコシティ推進会議、うめきたナレッジキャピタル等）

## 3. 整備系活動

- ① 新世代通信網テストベッドJGN-Xの整備などオープンラボ施設の充実に向けた活動の実施
- ② オープンラボ施設の利用促進に向けたPR、広報の実施

## 2012年度の活動計画②

	2012年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2013年 1月	2月	3月	4月
企画・広報分科会	● 第10回 分科会 (4/10)												● 第11回 分科会 (4月頃)
創造系活動				WG活動支援									
				ニーズ調査、テーマ検討、体制整備									
促進系活動				→ セミナー開催準備			→ シンポジウム 開催準備			→ セミナー開催準備			
				10周年記念事業の企画検討・実施									
				随時情報発信(Webサイト&Newsメール送付)									
整備系活動				けいはんな情報通信オープンラボの整備・運用									
				JGN-Xなどのネットワーク施設整備・運用									
【協議会関連】	● 第12回 運営研究 部会 (4/26)		● 第11回 総会 (6/4)		● セミナー (7月以降)		● けいはんな 情報通信研 究フェア2012 (11/8-10)	● 協議会主催 シンポジウム (11~12月)		● セミナー (1月以降)		● 第13回 運営研究 部会 (4月頃)	
				オープンラボ協議会事務局打合せ、月1回程度開催									

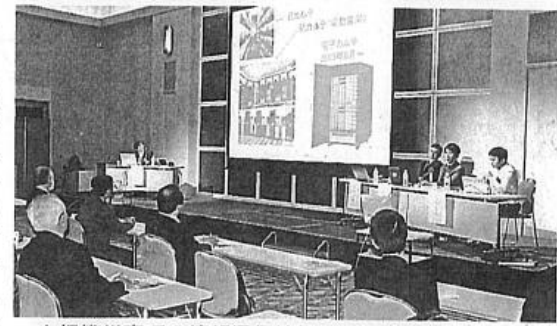
情報通信技術を生かした大規模災害への対策をテーマに、「けいはんな情報通信オープンラボ」が1日、京都府精華町のけいはんなプラザで開かれた。被災時の通信網の確保や身元確認について研究者らが報告した。

東北大の青木孝文教授は、宮城県内で見つかった遺体の身元を歯型で確認した経験を発表。歯の治療歴をデジタル保存しデータベース化する試みを報告し、「岩手県では不明者の約7割の歯科情報が震災で失われた。歯に関する情報を社会財産として保存できないか」と問題提起した。

同協議会は、災害時の情報通信網確保について報告。通信できなかった光ファイバー網を避けて別のルートを選んでくれる技術を紹介した。パネル討論では、京都大情報環境機構の井澤一朗教授ら4人が、ツイッターなどによる災害時の情報の信頼性をどう担保するか、議論を交わした。

(吉岡宏)

通信網確保や身元確認、経験生かせ



大規模災害での情報通信技術の活用策を探ったシンポジウム(京都府精華町・けいはんなプラザ)

精華 災害対応でシンポ

京都新聞2011年12月2日朝刊

国民文化祭・京都2011での展示  
(2011年10月29日)



第10回総会 近藤社長(株式会社はてな)ご講演  
(2011年5月31日)

